

場面 1

むかしむかし、おじいさんと おばあさんが やまおくの ちいさな むらに
すんで いました。

ふたりは しょうじきで はたらきもの でしたが、こどもが いないので、さび
しく おもって いました。

あるひ、おじいさんは やまへ しばかりに、おばあさんは かわへ せんとくに
ゆきました。

場面 2

おばあさんが ふと みあげると、おおきな ももが どんぶらこ どんぶらこと
ながれて きます。

「まあ、なんと おおきな ももだこと！もって かえって おじいさんに みせ
ましょう。」

おばあさんは いっしょう けんめい、ももを もちあげ、いえに もって かえ
りました。

ふたりは ごはんの あと たべようと、たのしみに して いました。ももを
きろうと すると、なかから おおきな なきごえが きこえ ました。

いったい、なにが でて きたの でしょう？

場面 3

「おぎゃあ おぎゃあ。」なんと、まるまる ふとった おとこのこが とびだして きました。

こどもが ほしかった ふたりは、そのこを ももたろうと なづけ、たいせつに そだてました。

ももたろうは もりもり なんでも たべる こども でした。

やさいと くだものは とくに だいこうぶつ です。

そして、つよく たくましく、こころの やさしい わかものになりました。

場面 4

そのころ むらでは こまった ことが ありました。おそろしい おにたちが
しまから やってきては たべものや たからものを ぬすんで ゆくのです。
あるひ ももたろうが いいました。

「これから おにがしまへ おにたいじに いって まいり ます。」

「なんと、おそろしい！」おじいさんと おばあさんは ひっしで とめました。
しかし、ももたろうの こころは かわりません。

「ここの むらを むかしのよな へいわな ところに したいんだ。」

場面 5

おじいさんと おばあさんは、そんな ももたろうの きもちが うれしくも ありました。

そこで、おじいさんは しずかに いいました。

「これは ただしい ことに つかうと ちからを はっきする ふしぎな かた なじゃ。もって ゆきなさい。」

おばあさんは きびだんごを つくってくれました。

「これは にほんいちの きびだんご じゃ。おまえに つよさと ゆうきを あたえて くれる。もって おゆき。」

「おじいさん、おばあさん、いって まいります。」ももたろうは おにたいじの たびに でかけました。

場面 6

ももたろうが あるいて いると、いぬが とびだして きました。

「ももたろうさん、おいしそうな きびだんごを もって、どこへ いくのですか？」

「おにがしまへ おにたいじに！おまえも くるかい？」

「もちろん、おともします。」

ももたろうは いぬに きびだんごを ひとつわたすと、いっしょに あるきだしました。

しばらくゆくと、さるが でてきました。

「わたしも おとも しますから、きびだんごを ひとつ ください。」

ももたろうは さるにも きびだんごを あげました。

また しばらく すると、きじが はなし かけて きました。

「どうぞ わたしも おともさせて ください。」

ももたろうは よろこんで きじに きびだんごを あげました。

そして、みんなで おにがしまへ むかって こうしんしました。

場面 7

うみべへ とうちゃく すると りょうし から ちいさな ふねを かり
ました。とうとう おにがしまへ しゅっぱつです。
よるに なると、もうれつな あらしが やってきました。
ももたろうと どうぶつたちは ふねのなかで しっかり だきあい たえ
ました。あらしの よるが すぎ、 むこうに おそろしげな おにがしまが
みえて きました。
しま ぜんたいが、かいぶつの かおの ようです。

場面 8

ふねを おりると おおきな もんが そびえて います。

「あけろ！わたしは ももたろうと いうものだ！はなしがある！」

ももたろうが さげびますが、だれも でてきません。

そこで、きじが とんで いて かぎを あけます。

ももたろうが、もんを けりあげました。

ばん！

そこは にんげんが いちども はいった ことのない ところでした。

ももたろうたちを みて、おにも びっくりしています。

おにたちが ももたろうと どうぶつたちを おいだそうと しますが、いぬが
て あしに かみつき、

さるは かおを ひっかき、きじは あたまを つつきます。

その あいだに、ももたろうは おに たいしょうの しろへ とっしん です。

場面 9

そこでは たいしょうが ふかふかの ざぶとんに ねころび、おさけを のんで
います。

「おまえは だれだ？ちびすけめが！」と いじわるそうに わらいます。
あごには、おさけが だらだら たれています。

「わたしは ももたろうと いうものだ。
おまえたちの せいで むらの みんなが こまっている。

たからものを ぜんぶかえせ！そして、にどと むらには くるな！」

「は、は、は、は、はっー！できるものなら やってみろ。だが、まずは おれを
まかして みろ！」

たいしょうは おおわらい しました。

場面10

ももたろうは さいごの きびだんごを とりだすと、ぽん、と くちに
いれました。ちからと ゆうきが わいて きます。

ももたろうは、かたなを あたまのうえで ぐるぐる まわします。

たいしょうも、ももたろうが ただの こども では ないことに きが
つきました。

それでも、よわいもの いじめが だいすきな たいしょうは、いじわるそうに
わらいながら、きいろい つのを ごしごし こすりました。

そして、がけのうえで ももたろうに、にじり よりました。あぶない、
ももたろう！

場面11

ももたろうが いまにも がけから おちそうに なったとき、いぬ、さる、きじが やってきて、たいしょうに とびかかり ました。すると、ももたろうの かたなが とび、おにの つのを すぱっと きり おとしました。

「うわ～！」たいしょうの なさけない さげびごえが しまじゅうに ひびきました。

つのが なくなったとたん、たいしょうは へなへなど、じめんに くずれおちました。

「やめてくれ～！」もう、なみだごえ です。

「にどと むらをおそったり しない。やくそくするから、ゆるしてくれ～！」

「たからものは どうする？」ももたろうが といつめます。

「やくそくは まもる。ほら、あそこをみてくれ。」

ももたろうが、ふねのほうを みると、こぶんたちが たからものを はこんでいます。ふねが いっぱいになると、ももたろうと どうぶつたちは かえって ゆきました。

おにがしまを ふりかえると、おにたちが はまべで、ふかぶかと おじぎを しています。

場面12

ももたろうと どうぶつたちが むらに もどると、みんなが はしって でて きました。

「ももたろうが おにがしまから、かえって きたぞお！

ばんざーい！ばんざーい！」

おじいさんも おばあさんも たいへん よろこびました。

ももたろうは たからものを みんなに かえし、むらには ふたたび へいわが やって きました。

そして、みんな いつまでも しあわせに くらしました。

あのおにたちも ころを いれ かえ、おにがしまで いつまでも しあわせに くらしていたとか、いないとか. . .

おしまい。